

平成13年8月27日 山北地区事業説明会概要

| 質問・意見等の要旨 | 回答の要旨及び見解 |
|---|---|
| <p>1 事業全般について</p> <p>(1) 福山道路を整備する場合の市の負担はいくらか。</p> <p>(2) 福山道路全線の概算事業費はいくらか。</p> <p>(3) 瀬戸地域は事業着手ということか。</p> <p>(4) 都市計画決定されたら、道路は整備するのか。</p> | <p>(1) 福山道路本線の整備については市の負担は無いが、設計協議等による関連事業には市が事業主体となる場合も想定される。</p> <p>(2) 過去の事例等から想定される福山道路の概算事業費は、用地費も含んだ額で、全線整備に1600億円から1700億円、暫定整備費で1300億円と見込んでいる。</p> <p>(3) 瀬戸地域は事業着手である。</p> <p>(4) 順次、整備していく。</p> |
| <p>2 構造等について</p> <p>(1) 雨水処理はどうなるか。</p> <p>(2) 瀬戸川・河手川への影響は。</p> <p>(3) ジャンクションの形態を教えて欲しい。</p> <p>(4) 西環状線のルート・構造を再度説明して欲しい。</p> | <p>(1) 詳細設計の段階で検討し、設計協議の段階で地域の皆様と協議する。</p> <p>(2) 同上。</p> <p>(3) 資料により説明。</p> <p>(4) ルート・構造を説明。</p> |
| <p>3 環境について</p> <p>(1) 環境影響評価の大气について、どこで調査したのか。</p> <p>(2) 完成後に基準を超えた場合の責任はどうとるのか。</p> <p>(3) SPMは評価自体が基準を超えている。どうやって守るのか。</p> <p>(4) SPMの現況はどうなっているのか。</p> | <p>(1) 松永支所にある常時観測所のデータがバックグラウンドとなっている。</p> <p>(2) 基準が守れるよう努力したいと考えている。</p> <p>(3) 道路からの影響度合は少なく、大きな要因はバックグラウンドとなっているので、備後公害防止計画等により地域全体でバックグラウンドの低減に取り組むこととしている。なお、極力、道路の影響を低減できるよう、清掃・植栽等の他、新技術の採用を検討することとしている。(別紙参照)</p> <p>(4) 松永観測所のデータは、減少傾向となっている。(別紙参照) H7-0.044mg/m³, H8-0.045mg/m³, H9-0.041mg/m³, H10-0.040mg/m³, H11-0.036mg/m³</p> |
| <p>4 現地調査について</p> <p>(1) 住民が完全に理解するまでは、測量は反対。</p> <p>(2) 測量の実施は、全体が了解してからにしろ。</p> | <p>(1) 1地区の状況ではなく、学区全体の状況により判断する。</p> <p>(2) 同上</p> |

| 質問・意見等の要旨 | 回答の要旨及び見解 |
|--|---|
| 5 用地について (1) 強制収用はするのか。 | (1) 制度としてはあるが、ぜひとも皆さんの理解を頂く中で整備したい。 |
| 6 都市計画決定について (1) 山北地区のルートはどうやって決めたのか。 | (1) 赤坂バイパスや福山西環状線との接続、安全性、走行性等を総合的に検討した結果である。 |
| 7 その他について (1) 赤坂バイパスの対応はどうしているのか。 | (1) (見解) 実態に応じて必要な保全措置を講じている。 |

大気質について

<大気質；浮遊粒子状物質（SPM）>

| | | | | |
|-----------------------------|---|----------------------|---|-------|
| 地域の SPM の濃度 (バックグラウンド濃度) | + | 路線の自動車交通による SPM 発生濃度 | = | 予 測 値 |
|-----------------------------|---|----------------------|---|-------|

例えば、瀬戸 JCT・IC 付近 (E) において
(年平均値)

| | | | | | |
|--------|--|---|---------------------------------------|---|-----------------------------|
| 予 測 | 0.045 mg/m ³ | + | 0.0014 mg/m ³ | = | 0.0464 mg/m ³ |
| | 周辺地域を代表する 観測データとして松 永支局のデータを使 用 | | 瀬戸 JCT・IC の N1 付 近の官民境界部 1F の濃度 | | 合 計 濃 度 |

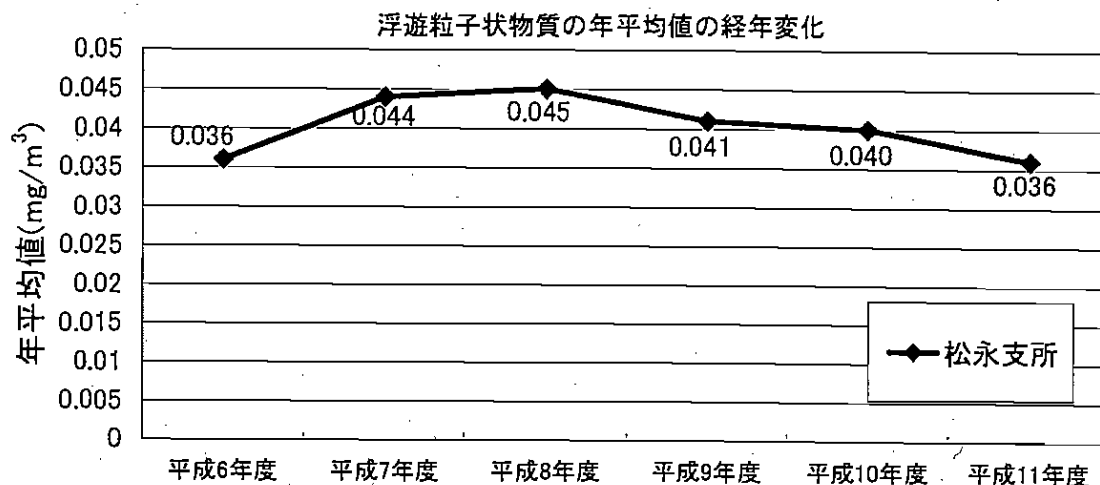
↓
 0.0464 mg/m³ を
 1 時間値の 1 日平均値の
 年間 2% 除外値 へ換算
0.117 mg/m³

| | | |
|--------------------------------------|---|--|
| | 地域の SPM の濃度(バックグラウンド濃度)を低減する方策 | 計画路線の自動車交通から発生する SPM の濃度を低減する方策 |
| 回 避 ・ 低 減 の 対 策 | 関係機関との連携のもとに 備後地域公害防止計画により、 ①発生施設の排出基準、施設 管理規準の遵守の指導・徹 底 ②交通流の円滑化 (渋滞が解消されることによ り排出量が大きく低減され る。) ③低公害車の導入 等の措置を総合的かつ計画的 に推進する。 | ・植栽・路面清掃等の措置を適切に 実施 ・道路構造面の対策 ・脱硝装置(土壤脱硝)や集塵装置の 採用、並びにその他沿道大気負荷 の低減に資する新技術の採用につ いて検討し、更なる大気負荷の低 減対策が導入されるように措置す る。 ※研究中の新技術については別紙参 照。 |

福山市（松永支局）大気現況経年変化

○浮遊粒子状物質経年変化

| | 平成6年度 | 平成7年度 | 平成8年度 | 平成9年度 | 平成10年度 | 平成11年度 |
|------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|
| 松永支所 | 0.036 | 0.044 | 0.045 | 0.041 | 0.040 | 0.036 |



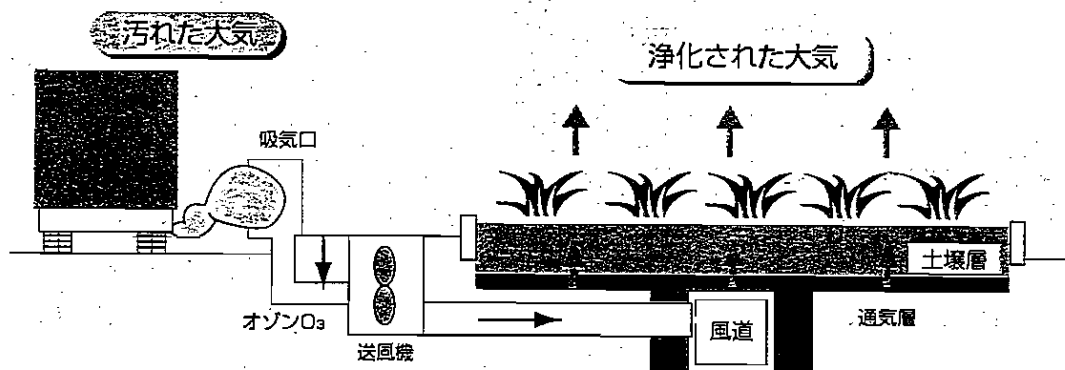
(出典：福山の環境)

大気負荷の低減に資する研究中の新技術

○脱硝装置（土壌脱硝）の研究

自然界の土壌が有している浄化機能を利用して、自動車排ガス等で汚れた空気をきれいにするシステムです。

土壌は粘土鉱物や有機物で構成されていますが、そこには様々な微生物が生息しています。汚れた大気を送風機で吸引し、通気層を介して土壌の中に通しますと、大気汚染物質は土壌粒子表面に一時的に捕集・吸着され、やがて、そこに生息する微生物によって浄化され、きれいになった空気が土壌の表面から大気中に放出されます。



○集塵装置の研究

塵や窒素酸化物等を極力低減するための局所対策として開発が進められている。

集塵装置イメージ図

